からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.2.23-3.1

2.23 **月曜日**	**「イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」**（マルコ 9:23） ●悪霊に取りつかれた子を連れてきた父親は、イエス様による癒しの奇跡を願いました。しかし、イエス様は、奇跡はその父親の信仰に懸かっていると語りました。一見、力ない様に見える私たちの「信仰」にこそ、人知を超えたキリストの力が秘められているのです。
2.24 **火曜日**	**「水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。日の中を歩いても、焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。」**(イザヤ 43:2) ●ふじみ教会の「不死身」とは、まさにこの個所の信仰者の姿を意味します。キリストを信じる者は、神の見守りによって水の中でも、炎の中でも無傷なのです。たとえ、罪や悪や死に襲われようとも、私たちはそれに打ち倒されることはありません。私たちは、キリストに繋がっているならば、死んでも生きる、“ふじみ”なのです。
2.25 **水曜日**	**「『わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。』」**(マコ 9:37) ●イエス様の弟子たちは、互いに優劣を競っていました。しかし、イエス様は、子供のような社会で何の地位も持たない、競争にすら参加できない小さき者にこそ目を向ける者が優れていると語りました。それは、親に一途な信頼を寄せ、弱き自分をさらけ出す子どものようにイエス様を受け入れている者こそ、「神を受け入れる人」であるとイエス様は語りました。

2.26 木曜日	**「あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と栄光と誉れとをもたらすのです。」**（Ⅰペトロ 1:7） ●ペテロは現在進行形で受けている迫害や、これから起きるネロ帝による大迫害の「試練」を、キリストへの信仰を精錬する火であると語っています。私たちが試練の中にある時には、信仰が強められているのです。そして、神はわたしたちに決して耐えられない試練を与えることはないのです。
2.27 金曜日	**「『塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。』」**（マルコ 9:50） ●塩は傷口には痛みますが、食物を保存し、殺菌するという有益な効果を持ちます。その瞬間は辛くとも、結果的に信仰を成長させる試練を大切にするように、とイエス様は語られました。
2.28 土曜日	**「イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。『あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。』」**（マルコ 10:21） ●この箇所の直前に示される子どものような信仰と対比されるように裕福な青年の姿が示されています。「持てる者」であるよりも「子ども」の様に何も持たず純粋に「信じる」者であるならば、むしろ多くを得ることになるとイエス様は語ります。
3.1 日曜日	**「『人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。』」**（マルコ 10:45）●イエス様は単なる立派な教師として、または謙遜を教える模範としてこの地上に来られたのではありません。神が命を懸けて人間を愛するという常軌を逸したご計画を実現するために来られたのです。私たちは罪によって神の激しい怒りを受けなくてはなりませんでした。しかし、キリストが身代金として捧げられることでそれを免れたのです。